

15 馬見丘陵公園

—楽しみながら自然と歴史を学べます—

裕美ちゃん、先日はお手紙をありがとう。今年の敬老の日におじいさん、おばあさんをどこかに連れて行ってあげる計画をしているとのこと、よく分かりました。あなたたち姉妹の計画、きっと喜ばれることでしょう。

私は馬見丘陵公園をお勧めしたいと思います。ここにおじさんが出かけたのは、ハナショウブが今を盛りと咲き乱れる日でした。平日なのに大勢の人でにぎわっていました。お年寄りや車いすの方が大勢来られているのは、奈良県が作ったこの施設が、障害をもつ人たちのことも十分に考えて作られており、老人ホームなどのレクリエーションの目的地にされているからのようです。広い駐車場にはそうした施設のバスが何台も停まっています。

中央エリアの入口近くに、公園館があります。中に入ると、馬見丘陵の四季の移り変わりが分かりやすく展示されています。理科の勉強に役立つ施設です。



また、ヘリコプターから撮った周辺の様子が床面に並んだ9面のディスプレイに映し出されています。この映像の上を歩くことができますから、鳥になったような気がします。

右手のほうに行ってみると、森に生きる生物が展示されています。このあたりの森に住んでいる鳥や虫たちと植物のかかわり合いを勉強できるようになっています。

左側の部屋には、いろいろな形式の古墳の模型が展示されています。円墳や前方後円墳など歴史で習ったいろいろな形式の古墳です。さらに奥に進むと、古墳の仕組みの分かる大きな電動模型があり、スイッチを押すと片側がせりあがり、古墳の中の様子を見ることができるようになっています。そして、こんな古墳がどのように築かれたかを解説してくれます。

外に出て菖蒲園に行きました。100種類ほど植えられているというハナショウブが見事でした。紫色、うす紫色、白色など様々です。花びらの形が違います。細いもの、ちょっと広めのものなど、どれもこれも美しく咲いていました。



こうした花の1つ1つに名前が付いています。難しい漢字の名前が多いのですが、中には「乙女の夢」なんていうのがありました。裕美ちゃんの夢、そして、中学3年の美紀さんの夢は、どんな夢なのでしょうか。

ここからゆっくりと散策を楽しみ、ナガレ山古墳まで行きました。古墳というと、うっそうと繁った丸い山を思い起こすことでしょうか。そうではありません。全長105mのこの前方後円墳



は、後円部が3段、前方部が2段、周りに埴輪(はにわ)を並べ、石を

葺(ふ)いた今から1600年前の築造当初の姿に復元されているのです。そして、頂上まで登ることができます。眺めはいいですよ。大和三山、三輪山、そして、二上山、遠くに金剛・葛城の山々、今も昔も変わらぬ景色です。もっとも昔の人たちはこんなところに登らせてもらえなかったでしょうが。

私が行ったのは、初夏でしたが、9月だとどんな花が咲いているのかな。サルスベリ(百日紅)やスイフヨウなどがきれいに咲いているんじゃないかな。それから、ムラサキシキブもきれいだろうと思います。

秋の一日、歴史がお好きなおじいさんとお花が大好きなおばあさんが満足され、弟の佳男君は木製遊具のある北エリアに大喜びすることでしょう。

では、皆さんにとって楽しい一日になりますように。おじいさん、おばあさんにもよろしくお伝えください。

(やまと・平成19年9月号所載)

スポットの案内

馬見丘陵公園は奈良県がつくった施設で、年々広げられ充実してきています。河合町大字佐味田 2202 にあって、近鉄大和高田駅、五位堂駅から奈良交通バスが出ています。電話は 0745-56-3851 です。

馬見丘陵公園は年中無休で、開園時間は 8:00～18:00(季節により変動)です。公園館が開いているのは 9:00～17:00 で、年末年始と月曜日は休館(祝日にあたるときは次の平日が休館)です。

なお、入場・入館は無料です。

理科のワンポイント「アヤメ、カキツバタ、ショウブ」

近鉄奈良線に菖蒲池駅があります。この駅は「あやめいけ」と読みます。昔、あやめ池遊園地があったところで、この付近の町名は「あやめ池北」と「あやめ池南」、近くには奈良市立あやめ池小学校があります。

一方、近鉄奈良駅から少し北西に行ったところに「菖蒲池町」があり、これは「しょうぶいけ」と読みます。同じ市内に「菖蒲池駅」と「菖蒲池町」があり、これらはずいぶん離れたところにあって、読み方が違うのです。

「菖蒲」は植物の名前です。読み方は「アヤメ」と「ショウブ」の2つがあります。しかし、アヤメとショウブはまったく違う植物なのです。

アヤメは5月から6月に美しい花を付けるアヤメ科の植物、ショウブはサトイモ科の植物で黄緑色の小さな花が集まった穂を付けます。強い香りがある端午の節句(5月5日)にはこれを風呂に入れて菖蒲湯にすると1年間健康に過ごせると言われています。

このようにショウブはまったく違う植物なのですが、アヤメによく似た花を咲かせるハナショウブもショウブと呼ばれることがあります。ハナショウブはノハナショウブを改良して栽培されているアヤメ科の園芸品種なのです。〇〇菖蒲園などの名前で花の名所になっているところはこのハナショウブを栽培しています。ややこしいですね。それを一層ややこしくしているのがカキツバタです。漢字では杜若と書きます。とても読めませんね。このカキツバタもアヤメ科の植物でアヤメによく似ています。

「いずれがアヤメか、カキツバタ」という言葉を聞いたことがあります

ませんか。よく似ていて素晴らしく、見分けがつかないことを表現するのに使われています。アヤメとカキツバタはともに美しい花ですが、よく似ていて見分けがつかない代表なのです。

アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの3つについて、少し説明しておきます。実際に観察して、よく似たところ、違っているところを観察してください。

○ アヤメ…山野の草地に生えます。やや乾燥したところが好きで、ハナショウブと違って水中では育ちません。花は藍色か紫色で花びらの根元に網目のような模様があります。3つの中では最も背が低く、30～60 cmです。

○ カキツバタ…湿原，湿地帯に生えます。花は濃い紫色で、花びらの根元に白い目型の模様があります。背の高さや花の大きさはアヤメとハナショウブの間です。とは言っても、育ち方によって違いますから、それだけで決めるわけにはいきません。

○ ハナショウブ…500年も前から改良が続けられ、水辺などの湿ったところで栽培されています。紫，白，しぼりになったものなど美しく大きな花を咲かせます。花びらの根元に黄色い目型の模様があります。葉の中央に主脈が1本，裏には2本が突き出しています。品種は数百もあるといわれます。